

**単発、短時間、短期間で働くスポットワークの求人倍率は1.83倍、
 スポットワーカー平均時給は1,156円、3か月ぶりに通常バイト時給が上回る
 -スポットワークマーケットデータレポート（2023年9月度版）-**

多様な働き方の調査研究機関「ツナグ働き方研究所(<https://tsuna-ken.com/> 拠点：東京都千代田区/所長：平賀充記)」は、ここ数年で広がりを見せる「単発、短時間、短期間で働くスポットワーカーの市場」について定点観測する「スポットワークマーケットデータレポート」を毎月発表しています。本レポートでは、2023年9月度最新データについて、とりまとめましたのでご報告いたします。
 ※レポート詳細はこちら：https://tsuna-ken.com/research_report/202309_spotwork-9/

トピックス

1. スポットワークの求人倍率は1.83倍。前月より0.34ポイント上昇
2. 新規ワーク数は、前年同月比+10.7%。主要職種ではコンビニスタッフが+32.4%と伸長
3. スポットワーカーの平均時給は1,156円。3か月ぶりに通常バイト時給が上回る

■ 1. スポットワークの求人倍率は1.83倍。前月より0.34ポイント上昇

2023年9月度のスポットワーク求人倍率は1.83倍。前月差は+0.34ポイントとなり、9月以降年末にかけてスポットワークの需要が伸びる例年のトレンド通り、前月を上回る結果となりました。前年同月差は+0.08ポイントと、3か月ぶりに前年同月を上回りました。

スポットワーク求人倍率の推移



出典) 単発/バイト求人サイト「ショットワークス」2019年9月～2023年9月データを加工
 ■ 求人数：ショットワークスにおける当月のワーク出稿数 ■ 求職者数：当月登録UU数+前月以前登録者の応募UU数

■ 2. 新規ワーク数は、前年同月比+10.7%。主要職種ではコンビニスタッフが+32.4%と伸長

景気の先行景気の先行指標とも言われる新規ワーク数は81,325件。6月から4か月連続で前年同月比プラスを維持しています。主要職種ではコンビニスタッフが前年同月比+32.4%と最も伸びが高くなっています。

職種別新規ワーク数伸び率推移

マクロ
経済指標



出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」2022年9月～2023年9月データを加工

© 2023 TSUNAGU GROUP HOLDINGS Inc.

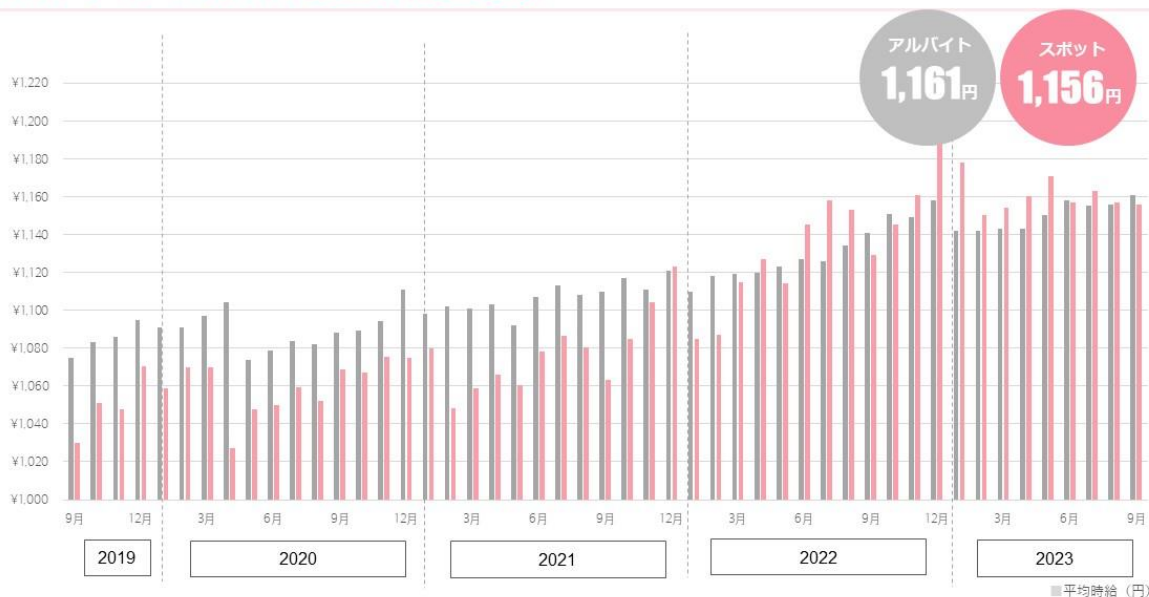
■ 3. スポットワーカーの平均時給は1,156円。3か月ぶりに通常バイト時給が上回る

2023年9月度のスポットワーク平均時給（首都圏・関西圏・東海圏の3大都市圏）は1,156円。前月差-1円、前年同月差+27円となりました。通常のアパート平均時給1,161円（※リクルート発表「アルバイト・パート募集時平均時給調査」）との比較では5円安く、3か月ぶりにアルバイト時給がスポット時給を上回っています。

主要3職種では、特に倉庫内・軽作業ではスポット1,196円、アルバイト1,179円と、スポットワークの時給が17円高くなっています。

スポットワーク・アルバイト賃金の格差比較

マクロ
経済指標



出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」三大都市圏平均時給2019年9月～2023年9月データ
リクルート「アルバイト・パート募集時平均時給調査」2019年9月～2023年9月を加工

© 2023 TSUNAGU GROUP HOLDINGS Inc.

出典)

単発バイト求人サイト「ショットワークス」2019年9月～2023年9月データ
総務省統計局「労働力調査(詳細集計)2023年(令和5年)7～9月期平均」
リクルート「アルバイト・パート募集時平均時給調査」

■スポットワークマーケットデータレポートとは

・**スポットワークマーケットの定義**

スポットワークとは、単発、短時間、短期間で働き「継続した雇用関係」のない働き方を指します。その中でも、雇用契約を結ばない“ギグワーク”と、単期雇用契約を結ぶ“単発バイト”の2種類に分類されます（ギグワークの代表例として、ウーバーイーツ配達員が挙げられます）。こうしたワークスタイルで働く個人、活用する企業の市場がスポットワークマーケットです。

・**マーケットの現状**

スポットワーカーは、コロナ禍を契機に急増、今後さらに広がりを見せていくことが予見されます。

個人) 働き方改革による残業規制、コロナ禍による休業や勤務時間減少で、追加就労意欲が増大

企業) 生産性向上観点から、ムダやムラのない＝必要な時に必要な人数を配置する人件費最適化の高まり
技術) タイムリーかつオンデマンドなマッチを提供するスポットワーク求人事業者の参入

・**定点観測する意義**

総務省統計局の「労働力調査」では、2018年からILO基準の「未活用労働指標」を導入しました。例えば、その中にある「追加就労希望就業者」は「広義の失業者」とも言われる労働者です。現状の就労に追加してスポットで働くことは、労働者の収入安定、すなわち広義の失業率の改善につながります。一方、マクロ的に捉えると、潜在的な労働力活用は国力の向上に寄与することになります。こうした社会的意義と接続する観点から、本マーケットを定点観測し、市場規模の動向、有益なトピック、内在する課題などを可視化するデータレポートを発信していきます。

■ツナグ働き方研究所とは...

株式会社ツナググループ・ホールディングスを母体とする「多様な働き方」の調査研究機関。所長である平賀充記(ひらがあつのり)は、リクルートにて、FromA、タウンワーク、とらばーゆ、ガテン、はたらいくなど、主要求人メディア編集長を歴任、メディアプロデュース統括部門執行役員を経て、人と組織の研究家に転身。特に30年以上にわたり観察を続けてきた「職場の若者」について造詣が深い。昨今では、組織コミュニケーション研究の観点から「ポストコロナ時代のリモートワーク」について精力的な研究に従事。近著に「パート・アルバイトの応募が殺到！神採用メソッド」(かんき出版)「なぜ最近の若者は突然辞めるのか」(アスコム)。最新刊「イライラ・モヤモヤする今どきの若手社員のトリセツ」(PHPビジネス新書)を上梓。

<https://tsuna-ken.com/>

■過去の調査、リリース(一部)は以下に公開しております。

【コロナ影響を紐解く調査③】全国の時給で働く人1000人調査
コロナで仕事が減った人は5割に！4月からさらに影響が甚大に！

https://tsuna-ken.com/research_report/20200525_1955/

【コロナ影響を紐解く調査④】コロナ起因の求職意識調査
いま求職している人のうち7割が就業中！サクッと稼げる副業ニーズ高まる！

https://tsuna-ken.com/report/20200608_1955.html

【ウィズコロナの多様な仕事観調査①】若年正社員に聞いた収入面から考える就業意識調査
コロナで年収が減った若手社員の8割、女性では9割が収入増を目指す！

https://tsuna-ken.com/research_report/income_corona/

【ウィズコロナの多様な仕事観調査③】フードデリバリー就業意識調査 Vol.2

働く時間は月50時間まで！収入は5万円までOK！フードデリバリーの仕事は、空いた時間を活かして稼ぎたい志向が鮮明に！

https://tsuna-ken.com/research_report/food-delivery_2/

【本件に関するお問い合わせ先】

ツナグ働き方研究所（株式会社ツナググループ・ホールディングス）

担当：和田（わだ） tsuna-ken@tsunagu.co.jp

■会社概要

社名：株式会社ツナググループ・ホールディングス

住所：〒100-0006 東京都千代田区有楽町 2-2-1 X-PRESS 有楽町 3 階

代表者：代表取締役社長 米田 光宏

資本金：700,576 千円

従業員数：690 名/グループ合計（2023 年 9 月 30 日現在）

URL：<https://tghd.co.jp>

【取材・報道関連に関するお問合せ先】

株式会社ツナググループ・ホールディングス

広報担当 Mail：tghd-info@tsunagu-grp.jp